海外の動き

インドで歴史的な大規模ストライキ

銀行・保険労働者を含めて1億5千万人が参加

9月2日水曜日、インド各地で1億5千万人が参加する24時間ストライキが行われました。ストライキは現インド中央政府による労働法の改悪と国営企業の民営化政策に反対して行われました。ストライキには銀行、製造業、建設業、炭鉱を含む10のナショナルセンターが参加。地元メディアの「ヒンダスタン・タイムズ」電子版は「全国の運輸業、銀行業」が影響を受け街では通勤に向かう人々が長い列を作っている様子を報じています。また、全インド銀行従業員組合のベンカンチャタラム書記長は同紙に「インド準備銀行、国営銀行、古くからの民営銀行、協同組合銀行、地域銀行の従業員が参加している」と話しています。また、同書記長はエコノミックスタイムズ紙上で14の銀行労働組合が9月2日のストライキの呼びかけを行ったと述べています。2010年にプラディブ・ビスワス書記長が来日した際に金融労連執行部と懇親したインド銀行従業員組合連盟（ＢＥＦＩ）も積極的にストライキ参加を呼びかけていました。（注）

カルカッタでは商店や、マーケット、ビジネス施設がほとんどの地域で閉じたままとなっていると報じ、西ベンガルではいくつかの衝突もあり、同州の首都ではストライキ参加労働者がデモ行進しようとするのを制止しようとする警官隊ともみ合いになったとも報じています。カルナータカ州では州政府の警告にもかかわらずタクシーやオート力車が道路わきに停止したままで、大学を含む学校は休校となっています。

保険労働者もストライキに参加しています。10万人を超える国営のインド生命保険の労働者がストライキに参加し、非生命保険分野の労働組合は賃金交渉の早期解決と昇進問題の解決、業務外注化の廃棄を求めています。

ウイークエンドリーダー紙の電子版はインドの金融中心地ムンバイを含むマハラーシュートラ州でのストライキの様子を伝えています。「州全体で100万人以上の金融機関従業員が全国規模のストライキに参加し、インド金融業の首都ムンバイでは銀行と金融機関は機能マヒに陥った」という組合リーダーの言葉を紹介。全インド銀行従業員組合のＶ・ウタギ副委員長はインド全体で銀行は機能停止状態にあると述べています。また同紙は中央政府が労働法を改悪し差別的な「雇用・解雇政策」を確立しようとしていると解説。現在労働組合法の下で保護されている労働者の70％を、その保護の下から排除し銀行業の正規雇用の請負化を進めようとしていることに労働組合が反対しているとしています。

ストライキに参加している10のナショナルセンターのひとつインド労働組合センターのタパン・セン書記長は9月2日付けで「インド労働組合センターは歴史的なストライキに際してインドの労働者階級に敬意を表明する」と言う声明を公表。声明の中でストライキには1億5千万人以上が参加し、ほとんどすべての部門、組織された部門、未組織の部門、公的部門、民間部門をカバーしていると述べ、この前代未聞のストライキは労働者に対する攻撃、労働条件、生活条件に対する攻撃と労働者の根本的な権利を否定しようとする労働法改悪への怒りと憤怒があらわされていると述べています。（翻訳　田中均）

（注）当ホームページ「論文とレポート」のページに掲載の「90％国有・公有の銀行システムの維持・充実に取り組むインドの銀行労度運動」参照。